

トウキョウX肉質の変動要因の解明と斉一性向上

【研究概要】

トウキョウX育成豚雌7頭と去勢雄3頭について、体重が30kgに到達した時点から肥育飼料を給与し、標準的な出荷体重まで肥育して食肉処理場へ出荷した。と畜の翌日にデジタルフォースゲージを用い、右半丸枝肉の第4～5胸椎間のロース芯断面の中心部及びその周囲4か所以上で、ロース芯断面に対してプランジャを垂直に当てて応力を測定した。しまりの等級3の応力値は2の応力値に比べて有意に低かったことから、ロース芯の応力値がしまりの評価に利用できる可能性が示された。しまりの等級ごとの出荷時体重を比較すると、しまり3が2に比べて有意に大きかった。また、ロース芯の応力値と出荷時体重の間に負の相関がみられた。しまりの等級を下げないためには、出荷時体重は、適正とされる110～115kgを大きく超えないようにすることが肝要である。